

2021年度 事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

(1) 2020年度公募型研究助成事業の完了

2020年度に実施した食物アレルギーに関する予防、診断、治療、対応食品等の研究開発に関する研究助成事業（共同研究5件・2,750万円、個人研究18件・3,389万円、期間：2020年4月～2021年3月）を完了した。研究成果報告書を纏め、当財団Web上での掲載及び冊子で公開するとともに、研究成果報告会を開催した。

《研究成果報告会》

開催日：2021年10月12日

場所：AP品川アネックス(東京都港区)

開催形式：口頭報告会を実施し、リアルタイムでオンライン配信（共同研究報告会）
Web会議方式（個人研究報告会）

参加者数：約80名（現地出席とオンライン参加合計）

内容：全課題の報告会を行った。共同研究はオンラインを併用したライブ配信形式で開催し、報告者、聴講者ともに所在地に関係なく参加し易いというメリットを再確認した。個人研究は完全オンライン形式で開催した。聴講者には各自が興味を持った課題を聴講いただいた。深く密に議論ができる点が特に好評であった。

(2) 2021年度公募型研究助成事業の実施

食物アレルギーに関する科学技術の振興・促進を図り、当該分野の医療や食環境の改善に寄与することを目的とした研究助成事業において、2021年度の助成先として採択された研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

《助成先等》

助成件数：21件（共同研究5件、個人研究16件）

助成総額：6,140万円（共同研究3,000万円、個人研究3,140万円）

助成先：別表1に記載

助成期間：2021年4月～2022年3月

特記事項：2022年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団Webサイトへの掲載、冊子の作成、成果報告会の開催）を行う。

(3) 2022 年度公募型研究助成事業の推進

2022 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

ア 主要日程

- ・ 2022 年度研究助成募集要項の策定（2021 年 6 月）
研究助成委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・ 公募（2021 年 7 月 16 日～9 月 30 日）
- ・ 第 1 回研究助成審査委員会（2021 年 10 月 20 日）
- ・ 第 2 回研究助成審査委員会（2021 年 12 月 10 日）
- ・ 助成先の決定（理事会決議：2022 年 2 月 1 日）
- ・ 通知（2022 年 2 月）
- ・ 覚書締結（2022 年 3 月）

イ 助成先等

- ・ 応募総数：40 件（共同研究 17 件、個人研究 23 件）
- ・ 助成件数：21 件（共同研究 6 件、個人研究 15 件）
- ・ 助成総額：6,138 万円（共同研究 3,249 万円、個人研究 2,889 万円）
- ・ 助成先：別表 2 に記載
- ・ 助成期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

(4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

財団の事業に有益な研究や行政動向に関する情報収集とともに、財団のパブリックリレーション活動の一環として、以下の学会や展示会に参加し、講演、展示または広告掲載等を行った。

医学関係：日本小児臨床アレルギー学会、日本アレルギー学会近畿地方大会、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会

食品関係：ifiaJAPAN、日本食品化学学会、日本栄養・食糧学会、日本農芸化学会

※参加を計画したその他の学会はコロナウイルスの影響で中止や開催形式が変更となったため参加を見送った。

また、食物アレルギー研究会においては共催セミナーを実施した。

《食物アレルギー研究会での共催セミナー》

実施日：2022 年 2 月 4 日～3 月 6 日

形式：Web 開催（オンデマンド配信）

共催：第 22 回食物アレルギー研究会

演題：深掘り！『食物アレルギー診療ガイドライン 2021』

1. 栄養食事指導

杉浦至郎先生（あいち小児保健医療総合センター 保健室長 兼 アレルギー科医長）

2. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー

福富友馬先生（国立病院機構相模原病院臨床研究センター 室長）

参加者：743名（食物アレルギー研究会参加者）

2. 食物アレルギーと向き合う人々のQOL維持・向上を目指した啓発・支援活動

(1) 「第7回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」表彰事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の健全で豊かな食生活に寄与するために、食物アレルギーに配慮した創作型料理（アレルゲン除去食、代替食）を公募し、専門家で構成する審査委員会で優良作品を選考するコンテスト事業を継続実施した。当事業は、家庭等で工夫された料理技術の伝承、アレルギーに関する意識喚起、教育機会の創出等を目的としている。

昨年度と同様、一般の部と学生の部に分けて募集。対象料理は、主食・主菜・副菜・おやつ・デザート等のジャンルを問わず募集したが、今年度より両部ともに応募条件を「卵、乳、小麦の3品目」を使用しないことに変更した。

ア 主要日程と受賞数等

- ・2021年度募集要項の策定（2021年6月）
- ・公募（2021年7月1日～9月30日）
- ・第1回審査委員会（2021年11月19日）
- ・第2回審査委員会（2022年1月30日）
- ・受賞作品の決定（理事会決議：2022年3月10日）

- ・応募総数：657件
- ・事務局による一次審査通過数：101件（両部門合計）
- ・審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：20件（両部門合計）
- ・審査委員会（試食審査）による最終審査結果：

最優秀賞	1件	（各部門それぞれ）
優秀賞	1件	（各部門それぞれ）
審査委員特別賞	4件	（各部門それぞれ）
入賞	4件	（各部門それぞれ）

- ・後援：厚生労働省、農林水産省
- ・運営協力：女子栄養大学出版部

なお、今回は「お手軽」、「プロ級」、「1品で満腹」といった観点で高い評価を受けた作品にはそれらの特徴を表彰状に明記した。

受賞作品名は別表3に記載

イ 受賞作品の情報公開及び表彰式の開催

(ア) 第6回コンテストの表彰式(2022年1月23日)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応して延期した2020年度第6回コンテストの表彰式をハイブリッド形式(会場とオンライン参加)で実施した。現地参加者が最少人数になる形とした。

(イ) 第7回コンテストの表彰式(2022年3月13日)

新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、ハイブリッド形式(会場とオンライン参加)で実施した。現地参加者が最少人数になる形とした。第6回、7回ともに、受賞者の栄誉を称えることはもちろん、受賞者に創作料理への想いや体験について発表いただくことにより、参加者の想いが交わる意義深い会とすることができた。

受賞作品のレシピ、調理法(動画)のWeb上での公開、レシピ集の作成などは当初の予定通り2022年度に行い、成果物の普及活動に取り組む予定である。

ウ 優れた作品の再発見プランの遂行

試食会の開催が出来ず、過去3回の一次通過作品から優れた作品を再発見する計画は完遂に至らなかった。2022年度に再計画を行う。

(2) 食物アレルギーセミナーの実施

ア 栄養士、食従事者向けセミナーの開催

栄養士や食従事者を主な対象として、食物アレルギーに関する診断・治療・栄養指導・事故予防等に関するセミナーを完全オンライン形式で行った。特別講演として、宮崎、長野会場では、藤田医科大学客員教授の宇理須厚雄先生より「食物アレルギー 家庭と園・学校での対応」を、島根会場では藤田医科大学総合アレルギーセンター 小児科教授の近藤康人先生に「ひやりはっとの体験から学ぶ 食物アレルギー発症予防と初期対応」をお話いただいた。別府大学栄養科学部の高松伸枝教授には全会場にて「食物アレルギー栄養食事指導のポイント」を解説いただいた。最新情報を盛り込んだ講演は極めて好評であった。また、講演後の座談会(質疑応答)は、聴講者が日常現場で抱えている課題に関して、先生とともに解決するという趣旨で実施し有意義な会となった。なお、今年度も継続して、(公社)日本栄養士会の「生涯教育認定制度」の運用(受講者の単位取得)を実施した。

《開催日程》

宮崎会場：2022年2月6日(外部講師：宇理須厚雄先生、高松伸枝先生)

島根会場：2022年2月23日(外部講師：近藤康人先生、高松伸枝先生)

長野会場：2022年3月6日(外部講師：宇理須厚雄先生、高松伸枝先生)

《開催形式》

全会場、完全オンライン形式(感染拡大状況を考慮し、ハイブリッド形式から切り替え)

《運営協力》

女子栄養大学出版部

3 会場での参加者数は 979 名であった。オンライン方式を取り入れることで、現地開催のみと比べ、一開催あたりより多くの聴講者に参加いただけることを再確認した。

イ 保育者向けセミナーの開催

保育所や認定こども園等の保育士、栄養士を主な対象として、食物アレルギーに係る基礎知識及び対応方法に関するセミナーをハイブリッド形式で実施した。新規事業にも関わらず 548 名に参加いただくことができた。

基調講演として、同志社女子大学名誉教授の伊藤節子先生より「食物アレルギーの基礎知識と給食対応のポイント」を、講演 1 として地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 小児科 主任部長の亀田 誠先生から「保育所・こども園での食物アレルギー対応」をお話いただいた。基礎知識からエピペン講習まで盛り込んだ講演は極めて好評であった。また、講演後の座談会（質疑応答）は、今現在職場で困っている内容の相談が相次ぎ、問題解決の場となった。

《開催日程》

京都会場：2021 年 11 月 27 日（外部講師：伊藤節子先生、亀田 誠先生）

《運営協力》

公益社団法人京都市保育園連盟

(3) 団体活動支援助成の実施

全国の市民、民間団体等が行う食物アレルギーに係る問題解決を目指す諸活動（教育、調査研究、啓発物の作成等）を支援する目的で助成事業を行った。公募制により課題を募集し、理事会にて審査基準に基づき、公益性、実現可能性、社会への波及効果等を評価し、助成の可否決定を行った。なお、今年度は助成先のニーズに対応するため、助成期間を伸長して公募した。

ア 主要日程と助成先

- ・公募 第一期：2021 年 4 月 1 日～4 月 22 日
第二期：2021 年 7 月 30 日～9 月 3 日
- ・助成先の決定 第一期：2021 年 5 月 13 日、第二期：2021 年 9 月 30 日
- ・助成期間 第一期：2021 年 7 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
第二期：2021 年 11 月 1 日～2022 年 6 月 30 日

- ・助成件数：4 件（第一期・4 件、第二期・0 件）
- ・助成総額：310 万円（第一期・310 万円、第二期・0 万円）
- ・助成先：別表 4 に記載

イ 成果報告会の開催

料理コンテストの表彰式と同日開催を予定していたが、コロナウイルス対応下での表彰式実施に注力するため開催を見送った。

3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギーの環境改善に向けた取り組み

(1) 事業成果物の普及活動の推進

ア 啓発物の普及

2015年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした啓発本「食物アレルギーのひみつ」について、年間4回のプレゼントキャンペーンを継続すると共に、季節性イベントに合わせたキャンペーンを追加して実施した。また、小冊子については、主催セミナー、各種の講演会等にて配布した。

イ 料理コンテスト事業における入賞作品のレシピ等成果物の普及

(ア) 受賞レシピ及び料理動画

コンテスト受賞作品の社会での活用を目的に、レシピを普及する活動を推進した。第6回コンテスト受賞作品の料理動画を作成し、当財団のWebサイト上で無料公開を行った。公開した料理動画は、第1～6回コンテストを合計して122品となった。また、第6回コンテスト受賞作品のレシピ集を作成し、セミナー等で配布した。

(イ) 成果物の普及に関する企画

当財団が保有するレシピの活用促進を目指してWebサイト上に「レシピ検索機能」を実装した。

(2) 行政等のソーシャルセクターとの連携（厚生労働省等）

厚生労働省の補助事業として（一社）日本アレルギー学会が運営するアレルギー情報ポータルサイト（アレルギーポータル）に当財団の制作物や主催セミナー情報を継続的に掲載いただいている。また消費者庁との情報交換を開始した。

(3) 社会と連携した教育活動の支援、専門知識を有す食従事者養成を目的とする活動の支援

当財団の食物アレルギーセミナーが、（公社）日本栄養士会が主催する「食物アレルギー管理栄養士・栄養士認定制度」の資格更新単位認定セミナーとなっている。

大学、小学校や調理師養成校等の教育機関や宿泊施設からの委嘱を受け、食物アレルギーに関する基礎知識、栄養指導等の最新情報、エピソードトレーニング等の講義を実施した。

4. 財団の認知度や理解向上のための取り組み

(1) Webサイトを活用した情報発信

財団の広報、情報公開における有用なツールであるため、コンテンツの充足、刷新に努め

た。中でも、「レシピ検索機能」の実装を機に、これまで積み重ねてきた公開情報の整理を行い最新情報の視認性の向上を図った。

(2) 学会その他の展示ブースを活用した財団紹介

新聞等の媒体の活用、学会等での展示、各種講演等により財団の認知、知名度の向上を図った。事業の節目で、メッセージ性を判断して、6回のニュースリリースを実施。多数の記事掲載実績を得た。

5. 財団運営

(1) 公益法人運営の基本原則（遵法、情報開示、ガバナンス）を重視した健全運営を継続すべく、機関決定及び業務執行を行った。

機関運営を別表5に記載

(2) 運営に万全を期すために、継続して外部ブレイン（税理士法人、司法書士、公益法人協会、助成財団センター、ITコーディネーター等）を活用した。

(3) 事業成果が社会に与えるインパクトや影響に関する評価とフォローアップを継続実施した。

(4) 寄附文化の醸成を目指した全国的な啓発活動に参加し、寄附金募集の広報を行った。

以上

別表1 2021年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成(5件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	安達 貴弘	東京医科歯科大学 難治疾患研究所・未病制御学 准教授	食物アレルギーにおける免疫記憶の解明およびその制御法の開発
2	大矢 幸弘	国立成育医療研究センター アレルギーセンター アレルギーセンター長	鶏卵アレルギー児に対する経口免疫寛容を誘導するための安全性の高い摂取法の開発-ランダム化比較試験
3	松尾 裕彰	広島大学 病院薬剤部 教授	Amplified Luminescence Proximity Homogeneous Assay (ALPHA)法を用いた食物アレルギーの新規検査法の開発
4	松本 健治	国立成育医療研究センター 研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	食物に対する経消化管感作の機序、特に IL-25 の役割の解明
5	丸山 伸之	京都大学大学院農学研究科 教授	「花粉関連食物アレルギー症候群」における原因抗原のエピトープ構造解析と低アレルギー化食品の開発基盤

【個人研究助成(16件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	赤川 翔平	関西医科大学医学部小児科学講座 助教	小児の食物アレルギーと腸内細菌叢の関連
2	伊沢 久未	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 助教	脂質を認識するペア型免疫受容体による食物アレルギーの病態制御機序の解明と予防・治療法開発
3	市 育代	お茶の水女子大学基幹研究院 講師	高度不飽和脂肪酸欠乏による食物アレルギー応答の制御変化と機序の解明
4	鶴川 真実	摂南大学 特任助教	膜透過ペプチドを側鎖に持つ高分子のアレルギー根治療法への展開
5	川本 典生	岐阜大学医学部附属病院 小児科 講師	食物アレルギー診断技術向上と抗原改変食品作成を目標とした IgE の構造エピトープの解析

6	清水 裕	北海道大学大学院水産科学研究 技術専門職員	甲殻類アレルギーの消化性と消化管吸収動態に及ぼすメイラード反応の影響
7	高里 良宏	あいち小児保健医療総合センター 医長	固形物による食物誘発性胃腸症 (FPIES) の機序解明
8	田中 孝之	京都大学大学院医学研究科 客員研究員	鶏卵アレルギー小児の長期的観察による食物アレルギー寛容誘導機序の解明
9	田中 志典	東北大学 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の効果増強法の開発
10	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	乳児期のビタミンD投与によるアレルギー予防に関する研究開発
11	西 甲介	愛媛大学 准教授	魚油由来脂肪酸による食物アレルギー予防効果の実証と、そのメカニズムの解明
12	野村 孝泰	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 助教	胃食道逆流に注目した牛乳アレルギーモデルマウスの免疫機序の解明
13	藤田 真弓	神奈川県立こども医療センター アレルギー科 シニアレジデント	ピーナツ経口免疫療法の維持期における最適な維持方法の探索
14	森田 英明	国立成育医療研究センター 研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明
15	山下 弘高	琉球大学医学研究科 薬理学講座 准教授	食物アレルギーにおける経皮感作と経口免疫寛容のバランスの解明
16	横田 雅也	千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 助教	食物抗原に対する経口免疫寛容の誘導における腸管常在好酸球の役割の解明

※50音順、敬称略、所属等は2021年4月時点

別表2 2022年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成 (6件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	井上祐三朗	千葉大学大学院医学研究院 総合医科学 特任講師	唾液の次世代プロテオーム解析による、非侵襲的な食物蛋白誘発胃腸炎の診断・症状誘発予測マーカーの開発

2	今井 孝成	昭和大学医学部 小児科学講座 教授	食物アレルギー児におけるレジリエンス尺度 の開発
3	神沼 修	広島大学原爆放射線医科学 研究所疾患モデル解析研究 分野 教授	食品の味覚成分を利用した食物アレルギー制 御法
4	佐藤さくら	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 食物ア レルギー研究室長	アレルゲンコンポーネントを活用した乳児期 の食物アレルギー感作に関する研究
5	鈴木 亮	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授	新規アレルギー抑制分子 Ly6G によるマスト 細胞の機能制御と創薬への応用
6	藤枝 重治	福井大学学術研究院医学研 究科 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科 教授	モデルマウスを用いた花粉-食物アレルギー症 候群における経口免疫療法の確立と機序解明

【個人研究助成(15件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	赤川 翔平	関西医科大学医学部小児科 学講座 講師	機能性大麦を用いた腸内細菌叢を標的とする 新たな食物アレルギー治療法の開発
2	安藤 智暁	順天堂大学大学院医学研究 科 アトピー疾患研究セン ター 助教	経皮感作による食物アレルギー発症の新規病 態機序の解明
3	伊藤 尚弘	福井大学医学部附属病院 総合周産期母子総合医療セ ンター 特命助教	食物アレルギーのアウトグローにおける抗原 特異的 IgD の役割
4	井上 雅己	神戸学院大学 薬学部 助教	経口免疫寛容を強力に誘導する新規 Treg 標 的バイオロジクスの創製
5	小谷 仁司	島根大学医学部医学科 免疫学講座 講師	食物アレルギー予防・治療を目指した核内受 容体リガンドによる制御性 T 細胞分化制御解 析
6	佐藤 陽	医療創生大学薬学部 衛生薬学部門 准教授	D-アミノ酸含有ビオチニル化ペプチドによる 持続的な抗アナフィラキシー効果の検証
7	清水 裕	北海道大学大学院水産科学 研究院 技術専門職員	発酵を利用した低アレルゲン化エビ調味料開 発の試み

8	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	母乳中 micro RNA が食物アレルギー発症に及ぼす影響
9	中村 公亮	国立医薬品食品衛生研究所 食品部第五室 室長	加工食品の輸出拡大を目指したコーデックス指定アレルゲンならびにアレルゲン様化学物質の網羅的検出法の基盤的検討
10	野村 孝泰	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学助教	胃食道逆流に注目した牛乳アレルギーモデルマウスの免疫機序の解明
11	田中 孝之	京都大学大学院医学研究科 客員研究員	鶏卵アレルギー小児の長期的観察による食物アレルギー寛容誘導機序の解明
12	深谷 知宏	宮崎大学医学部医学科 感染症学講座免疫学分野 助教	経口免疫寛容における粘膜組織樹状細胞と腸内細菌叢との相互作用の役割の解明
13	牧田 英士	自治医科大学附属病院さいたま医療センター小児科 助教	固形食物による消化管アレルギーの予後予測因子についての研究
14	三浦 陽子	独立行政法人国立病院機構 相模原病院 小児科 レジデント	LGG 乳酸菌を併用して行う経口免疫療法の有効性を検証する研究
15	横大路智治	広島大学大学院医系科学研究科 (薬) 准教授	低アレルゲン化小麦の交差反応を利用した安全性の高い小麦アレルギーの予防法と治療法の開発

※50 音順、敬称略、所属等は 2022 年 4 月時点

別表 3 第 7 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(10 件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	勤務先	都道府 県
最優秀賞 (1 品で満腹)	“つるん”を味わう！な めこ麺のなめこそば	佐藤 快枝 さん	千葉調理師専 門学校	千葉 県
優秀賞	フロマージュ風レモンパ フェ	増田 広美 さん	富士産業株式会 社 東京事業部	東京 都
審査委員特別賞	～もちもちトロリ～直径 5cm につまった幸せ☆	増田 華代 さん		埼玉 県
審査委員特別賞	さつまいものシークワー サーあんかけ	片岡 朋美 さん	地方独立行政法 人 那覇市立病 院	沖縄 県

審査委員特別賞	えっ?こんにやくと豆でトルティーヤ? みんなでせーの!がっブリト~	内間 和代 さん・ 宮木 弘子 さん	(株) 三恭 保 育園事業部	東京都
審査委員特別賞 (お手軽)	Come Come Come on!ぶち うま!!カリッとじゃこぼ う	藤井 麻耶 さん	認定こども園 野田学園幼稚園	山口県
入賞	さっと作れる さっ!豆テ ィラミス	檀 美名さん		京都府
入賞	米粉で簡単きのこスープ	吉田 京子 さん	文政保育園	熊本県
入賞	りんごのソイタルト.come	大森 典代 さん	砂原保育園	東京都
入賞	ふわふわイーストドーナ ツ	大関 響 さん	株式会社シェフ オーレ	千葉県

【学生の部(10件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	学校名	都道府 県
最優秀賞	森のバターで召し上がれ! ブッシュ・ド・ライス	まんぷくおじさんズ/ 蝦名 知恵里 さん・ 鈴木 佑梨 さん・高 橋 優香 さん	女子栄養大学 栄養学部 保健 栄養学科 保健 養護専攻	埼玉県
優秀賞	栄養もりもりっ和風ガト ーインビジブル	小島 梨奈 さん	郡山女子大学	福島県
審査委員特別賞 (お手軽)	おうち居酒屋開店!レンジ で簡単!明石焼き風だし巻 き卵	坂本 滯南 さん	龍谷大学	滋賀県
審査委員特別賞	ウィークエンド シトロン	勝たんしかれもん さ ん	玉名女子高等学 校	熊本県
審査委員特別賞	甘いも♪辛いも♪両方よ くばり揚げだんご	雨宮 あけみ さん	山梨秀峰調理師 専門学校	山梨県
審査委員特別賞 (プロ級)	キャラメルチョコムース ケーキ	園田 優希 さん	新潟県立大学	新潟県
入賞	プリッと!なんちゃってエ	井浦 陽菜 さん	郡山女子大学	福島県

	ビチリ			
入賞	お手軽パン 手が止まらない!!ザクザクグリッシーニ	梶 恵美さん	帯広大谷短期大学 生活科学科 栄養士課程	北海道
入賞	アレンジ無限!パーティー気分! コロコロいろいろコロックボール	富樫 春花 さん	龍谷大学	滋賀県
入賞	チェリーショコラタルト	鈴木 菜々江 さん	名古屋学芸大学 管理栄養学部	愛知県

※所属は2022年3月時点

別表4 2021年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期 (4件)】

	企画活動名	団体名	代表者名
1	アレルギーっ子啓発プロジェクト～LFA、寺子屋はじめます～	LFA 食物アレルギーと共に生きる会	大森 真友子
2	コロナ禍でも学校等の食物アレルギー対応を充実させる研修事業	特定非営利活動法人アレルギーを考える母の会	園部 まり子
3	専門医・エキスパートによる小児アレルギーのはなし	一般財団法人ヘルスサポーターズイノベーション	寺野 幸子
4	第6回ふくおか食物アレルギー攻略法講座—アレルギー診療の最新の明るい話題をおとどけます—	特定非営利活動法人福岡食物アレルギーネットワーク	柴田 留美子

【第二期 (0件)】

※企画活動名の50音順、敬称略

別表 5 2021 年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5 月 13 日	第 1 回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年度計算書類・事業報告の承認 ・ 定時評議員会の招集の決定 ・ 審査委員会委員の選任 ・ 2021 年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定 ・ 2021 年度事業進捗状況の報告 ・ 理事候補について
2	6 月 4 日	定時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年度計算書類・事業報告の承認 ・ 役員を選任 ・ 2021 年度事業計画及び収支予算書等の報告
3	9 月 30 日	第 2 回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定 ・ 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・ 2021 年度事業進捗状況の報告 ・ その他
4	2 月 1 日	第 3 回理事会 (決議の省略による)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度公募型研究助成事業における採択候補課題の決定について
5	3 月 10 日	第 4 回理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度事業計画について ・ 2022 年度収支予算について ・ 2022 年度資金調達及び設備投資の見込みについて ・ 「第 7 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」受賞作品の決定について ・ 規程類の改定について ・ 役員賠償責任保険について ・ 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 ・ 審査委員会からの答申内容について ・ その他

付属明細書に記載する事項無し

以上